

線形代数のレポートの4番について、いくつか問い合わせをもらったり、解答してくれた人には個別にコメントを書いたりしました。一応、少し解説しておこうと思います。準備として

$$\Omega = \{Z \in M_n(\mathbb{C}) \mid (Z - E_n)^n = O\}$$

とします。\$(Z - E_n)^n = O\$ は \$\exists N > 0, (Z - E_n)^N = O\$ (すなわち「\$Z - E_n\$ はべき零行列である」) と同値です (Cayley-Hamilton の定理の系)。ここでは以下の命題の解説を行います。

◇ \$\forall m \ge 1, \forall A \in \Omega, \exists! X \in \Omega, X^m = A\$.

これから \$m \ge 2\$ のとき「\$\det A \neq 0\$ なる \$n \times n\$ 行列に \$X^m = A\$ なる \$X\$ が丁度 \$m\$ 個存在するのは、\$\text{JNF}(A)\$ が1つの細胞からなるときに限る」を示すのは容易です：

まず \$\text{JNF}(A) = J(1; n)\$ なる \$A\$ について、\$X^m = A\$ の解が丁度 \$m\$ 個存在することを示す。\$\text{JNF}(X)\$ もただ1つの細胞からなることは容易にわかる (略)。よって \$\text{JNF}(X) = J(\alpha; n)\$ とすると、\$X^m = A\$ より \$\det\$ をとると \$\alpha^m = 1\$ なので、\$\alpha\$ は1の \$m\$ 乗根のどれかでなければならない。いま \$Y := \alpha^{-1}X\$ も \$Y^m = A\$ をみताすが、\$Y \in \Omega\$ なので、◇より \$X\$ は高々 \$m\$ 個ある。実際に \$m\$ 個あることは明らかである。

一般に \$0 \neq \beta \in \mathbb{C}\$ と \$A \in M_n(\mathbb{C})\$ について、\$X^m = A\$ であることと、\$(\gamma X)^m = \beta^{-1}A\$ であることは同値である。ここで \$0 \neq \gamma \in \mathbb{C}\$ は \$\gamma^m = 1/\beta\$ となるように1つ選んでいる。\$\text{JNF}(A) = J(\beta; n)\$ で \$\beta \neq 0\$ のとき、\$\text{JNF}(\beta^{-1}A) = J(1; n)\$ なので \$\gamma X\$ は丁度 \$m\$ 個存在し、したがって \$X\$ は丁度 \$m\$ 個存在する。

以上より、一般に \$\text{JNF}(A) = \bigoplus_{k=1}^{\ell} J(\alpha_k; n_k)\$ となっているとき (ここで \$\forall k, \alpha_k \neq 0\$), \$X^m = A\$ の解は少なくとも \$m^\ell\$ 個ある。したがって \$m \ge 2\$ のとき「」がわかった。

さて ◇ に戻りましょう。\$Z \in \Omega\$ について

$$\log(1+x) = \sum_{k \ge 1} \frac{(-1)^{k-1} x^k}{k}, \quad (1+x)^\alpha = \sum_{k \ge 0} \frac{\alpha(\alpha-1)\cdots(\alpha-k+1)}{k!} x^k$$

に \$x = Z - E_n\$ を代入することで、\$\log Z\$ と \$Z^{1/m}\$ が定義でき、以下が成り立ちます：

1. \$\forall Z \in \Omega, \exp(\log Z) = Z, (Z^{1/m})^m = Z\$
2. \$Z_1, Z_2 \in \Omega\$ が可換ならば、\$Z_1 Z_2 \in \Omega\$ で、\$\log(Z_1 Z_2) = \log Z_1 + \log Z_2\$

これらを認めると、\$X^m = A \in \Omega\$ となる \$X \in \Omega\$ の存在については \$X = A^{1/m}\$ とすればよく、\$X\$ の一意性については以下のようにすればよいです。

\$X \in \Omega\$ が \$X^m = A\$ とすると、\$m \log X = \log A\$ なので、\$\log X\$ は \$A\$ から決まる。よって \$X = \exp(\log X) = \exp(\frac{1}{m} \log A)\$ は \$A\$ から決まる。すなわち \$X\$ は高々1つ存在する。

以上の解答はあくまで一例で、他にも解法はいろいろあります。